

**そだちサポートプロジェクト**  
**令和7年度 第2回 そだサポ研修&交流会**  
**事後アンケート集計**

開催日 令和7年9月19日（金） 18：30～20：20

参加者： 63名 21 機関（講師、事務局除き、58名 17機関）

・機関（オブザーバー含む）	10	17	回答率：	59%
・回答者数（個人）	24	58名	回答率：	41%

**1. 事業所やお住まいがある地域はどちらですか？**

奄美大島	喜界島	沖永良部島	徳之島	与論島	鹿児島市	鹿児島市外	その他
18				1	4	1	

**2. 今回の事業所研修&交流会はいかがでしたか？**

満足している	まあまあ満足している	満足していない
22	2	

**3. 今回の事業所研修&交流会は日々の業務等に役立つと思えましたか？**

とてもそう思う	そう思う	全くそう思わない
24		

**4. 前半の研修はいかがでしたか**

テーマ：「保育所等訪問支援ガイドラインのポイント～他機関と連携していくために～」

大変満足している	まあまあ満足している	満足していない	不参加	未記入
23	1			

**5. 前半の研修について意見や感想を自由に書いてください。**

**【研修内容について】**

- ・「冷静に行動を観察し、安全や本人の安心、安定、心の平安が保てる支援」を意識して、行動の背景を捉えるように心がけることが大切だと感じた。
- ・「普段からの支援」や「落ち着いているときにこそ関わる」ことなどの大切さ、「子どもの行動の背景や理解を共有すること」など、環境調整が重要だと感じた。
- ・問題になる行動だけでなく、いろんな視点から考えることの大切さを改めて感じることができた。
- ・個々のニーズを理解し、支援者間で情報を共有することや、問題点を探し、理解を深めていくことが大切だと感じた。
- ・子どもたちが怒っている場面に多く関わっているが、自分自身、子どもたちに対して「悪い」と遠まわしに言っていたのだと改めて気づかされた。
- ・普段関わっている子どもとも同じような事例もあり、想像しながら参加することができた。（2）
- ・自身のその場での対応が子どもの行動を全否定してしまう対応をしていることが多かったのだと思った。
- ・今、直面している内容ばかりで、先生方の説明も「背景の理解」「その場での対応」「普段からの支援」と分けて考えながら、対応を教えていただけたのでわかりやすく、とても学びになった。
- ・研修中、何度も聞きながら拝聴した。対応の難しさはみなさん痛感していると思うが、行動の背景や根拠、対応方法など少しでも知ることができると気持ちに余裕を持って接することができるような気がする。
- ・日々の支援方法を振り返りながら、事例検討する機会になった。
- ・「なぜその子がそのような行動をとらなければいけなかったのか」その背景を、知る、観る、わかる（わかろうとする）ことが大切だと思った。
- ・子どもの思いを受け止める対応をすることの大事さを理解することができた（そうしなければならなかったことを受け止める。否定しない）
- ・その子にあった対応を考えていくことの大切さを学ぶことができた。
- ・落ち着くことができる環境の調整が大切だと感じた。

・良いときやうまくいっている時間を増やせる視点や機会を増やす取り組みを意識して関わって行くと、強度な行動障害がある状態を回避することができ、精神的な落ち込みや2次障害が減り、楽しく感じることができる時間が増えると思った。

#### 【研修の進め方について】

- ・基本的な考え方から実際の対応まで、自分の支援も振り返りながら研修を受けることができてよかった。
- ・事例を挙げて説明があったのでとてもわかりやすかった。
- ・具体的な対応方法なども示されたのでとてもわかりやすかった。（明日から活用していきたい）

#### 【時間設定や、時間の長さについて】

- ・時間は適当だった。

#### 【感想・その他】

- ・強度行動障害状態にある利用時も、いろいろな状態があるが、それぞれの状態における対応が困難であると感じている。
- ・今回の研修で学んだ内容を理解し、心に留めながら、ここの発達段階、特性、背景などを考えながら寄り添い、支援していくことが大切だと感じた。
- ・子どもたちの持っているニーズに対応できるようにしていきたい。
- ・子供たちの感情、行動を認め、環境づくりにしっかりと励んで行きたい。
- ・暴力や暴言に過剰な反応を行わないことは難しいこともあるが、どんな時でも冷静であることが大切だと思った。
- ・実践的な内容だったので、職員研修としてみんなで共有したいと思った。
- ・早速実践して行きたいと思う。
- ・明日からでも取り入れられる支援方法を具体的に示して頂いたのでわかりやすかった。
- ・研修を聞きながら、事業所の様子を思い浮かべ、いろいろな反省したり、考えさせられることが沢山だった。

### 6. 後半の交流会はいかがでしたか

大変満足している	まあまあ満足している	満足していない	不参加	未記入
17	4	2		1

### 7. 後半の交流会について意見や感想を自由に書いてください。

#### 【意見・感想】

- ・それぞれの事業所の課題は、自事業所にも関連する内容が多く、共感できた。
- ・それぞれの事業所の対処や考え方について話し合うことで、学びを深めることができた。
- ・ほかの事業所の支援方法や、先生方のアドバイスはとても勉強になった。
- ・それぞれの困り感など聞くことができてよかった。
- ・困っている事例をいろいろな事業所と共有できたのでよかった。
- ・各事業所の方の対応や困っていることなどを共有できたので支援に生かせると思えた。
- ・実際に関わっている子どもにも当てはまる意見を聞くことができて、参考になった。
- ・今、困っていることをほか事業所と共有したり、意見を聞くことができたので、明日への活力になるととても良い時間になった。
- ・各事業所でいろいろな困り事があり、少しずつヒントになるようなエピソードを聞くことができて参考になった。
- ・「行動の出鼻をくじく」という意見を聞くことができた。（参考にしていきたい）
- ・衣類を脱いでしまう子どもを見るのがあったが、その子にあった、落ち着ける場所を提供することは必要だと感じた。これからの支援の参考にしたいと思う。
- ・皆さんが日々の実践に苦慮されていることが感じられた。このような場を通して、それぞれの取り組みや背景を共有することができて、有意義な時間だった。
- ・交流会の時間が少し足りなかったように感じた。

- ・初めてのグループ進行で戸惑いもあったが、いい経験になった。
  - ・他害行動の事例について困り感を共有することができた。支援者同士が「わかるわかる」と話し合えるこのグループワークの場が素敵だと思いながら参加させていただいた。
  - ・ただ共感するだけでなく、解決への導きも先生方からアドバイスをいただけることが幸せだと思った。
  - ・事業所での取組について、答え合わせのようになり合わせすることができた。「大丈夫。この支援で間違っていなかった」と確認することで安心感にもつながった。
- 子ども達から沢山学ばせてもらっているが、こうして座学を通して根拠のある学びをいただけることに感謝している。
- ・交流会に移る前にモニターが映っておらず、参加した感が少し薄れて残念だった。
  - ・交流会のときにビデオが映らず、内容が頭に入りづらかった（視覚からの情報の大切さを痛感できた）

## 8.参加者からの質問事項にお答えください。

①利用者からの職員に対する暴力や暴言についてどのように対応していますか。

- ・好意的にスルーできるところはスルーした上で、本人が冷静なときに話をしたり、思いを聴くなどの対応を行っている。
- ・保護者の同意を得て、動画を撮り、パニックを起こした時の状態把握にも努めている。
- ・なぜそのような行動をするのか、分析していくしかないと思っている。そのことを職員間で共有できるよう、カンファレンスや障害特性について等の研修を行っている。
- ・事業所で現在課題になっている。利用次が成長し、体力的に女性職員の体力ではなかなか対応できない状況位が発生している。
- ・ケガをしないように気をつけながら対応している。
- ・暴言に対しては、気持ちが落ち着いてから対応するようにしている。（クールダウン）
- ・「なぜ暴力をしてしまったか」「本人の特性」「過ごし方、苦手さ、わかりにくさを改善する方法」などについて、良い支援方法をスタッフと考え、環境調整を行っている。
- ・状況にもよるが、スルーして対応する。職員全体で関わりを統一していくなど、職員のメンタル対応も行うようにしている。
- ・「痛かった」ということを伝えるようにしている。
- ・かまって感が感じられ、対応しているが収まらず困っている。

②職員の支援方法の統一について、事業所で工夫していることがあれば教えてください。

- ・「なんでもノート」や「引き継ぎノート」に記入する。
- ・朝礼と昼礼の活用
- ・セラピストからの助言を活かす。
- ・相談支援専門員が作成したサービス等利用計画書を再度確認し、スタッフと共有する。
- ・職員会議屋1日の振り返りの中で、ひとりひとりの状況を把握し、共有して行くように心がけている。
- ・子どもを中心に、スタッフと話し合う。
- ・一日の中で気になったことを互いに伝え合い、振り返りをする時間がある。
- ・夏休みは、学生の短期アルバイトや、普段は学校で支援員をしている方など、いろんな人が手伝いに来てくれたので、毎日短時間でも振り返りの意見交換を行っていた。
- ・時間がない中でも、出来るだけ職員間で支援の振り返りや、確認したいことは遠慮なく話し合えるようにしている。
- ・事業所内研修の実施（心理士の先生などを講師として）
- ・夏休みは、学生の短期アルバイトや、普段は学校で支援員をしている方など、いろんな人が手伝いに来てくれたので、毎日短時間でも振り返りの意見交換を行っていた。
- ・時間がない中でも、出来るだけ職員間で支援の振り返りや、確認したいことは遠慮なく話し合えるようにしている。
- ・話し合いの場を持つようにしている。
- ・職員が困り感について伝えやすいチーム作りにも心がけている。
- ・「一緒に考えること」が大切だと思うため、うまくいった対応や根拠を調べることも行っている。

・安心して提案できることを「うまくいっている時はどんな時?」「本人はどういう反応だった?」「それは増えている?減っている?」「周りの反応はどうだった?」「保護者は?」等、振り返ったり前にすすめる中で、上手くいくと職員も本人もモチベーションが上がるので、よく話し、書くように心がけている。(記録の残し方がもっと効率的に残せたらとも思っているため、ほかの事業所の工夫を聞いてみたい)

・お互いに気づきを言葉で伝え合うように努力している。(まだ全員ではないが)その上で、現状での最適な支援について話し合い、確認している。(心理の先生や外部の先生などの助言も踏まえながら。)

・子どもたちの送迎後、話し合いをしている。

・意見や相談など気軽に出来る関係を日頃から構築しつつ、職員間で儒教を共有するようにしている。

・朝礼やケース会での情報確認を行うなど職員間のコミュニケーションを意識している。

③異性介護について、同意書などはとっていますか。そのほか対応があれば教えてください。

・同性が対応するようにしている。(歩行介助については異性含め全員で対応している)

・異性介護はしないようにしているが、どこまでが解除になるのか線引きが難しい。(もしかしたら同意書を頂かなくてはいけないのかもと思ってしまった)

・同意書をとっている。

・同意書はとっていない。